

小【20】－

## オゾン療法で完治したミニチュア・ダックスフンドの炎症性結直腸ポリープの2例

○大池三千男<sup>1)</sup> 岩澤裕介<sup>2)</sup> 飯田祥与<sup>2)</sup> 渡邊謙一<sup>2)</sup> 峰重隆幸<sup>2)</sup> 古林与志安<sup>2)</sup>

1) おおいけ動物病院 2) 帯畜大基礎獣医学

【はじめに】ミニチュア (M)・ダックスフンドの炎症性結直腸ポリープ (ICRP) には、免疫抑制剤等による内科的治療や粘膜プルスルー等の外科的治療が行われている。今回 ICRP の2症例をオゾン療法で完治させたので報告する。

【症例1】M・ダックスフンド、避妊雌、13歳齢、体重 5.1kg。1週間前からの下痢とポリープによる直腸脱を主訴に来院した。初診時よりオゾン注腸法を開始し、7~15  $\mu$ g/mL、15~25mL と増量した。同時に、オゾン化オリーブ油 2.5g をポリープに塗布すると、ポリープは脱落し、減量された。ポリープの病理検査により、ICRP と診断した。7日間入院とし、毎日のオゾン療法によりポリープは減量され、第4病日に直腸脱は自然整復した。整復後もオゾン注腸法後、オゾン化オリーブ油 2.5g を直腸内に注入し、指でポリープに塗布し減量させた。抗生物質は7日間投与した。プレドニゾロンは 1 mg/kg BID で7日間投与し、その後漸減し、中止した。第52病日 (オゾン療法 13回目) には、ポリープは触知されなくなり、治療を終了した。

【症例2】M・ダックスフンド、去勢雄、11歳齢、体重 9.6kg。他院にて4ヶ月前から軟便の治療を続け、2日前からの出血で来院した。第1病日は検便後、抗生物質と整腸剤を処方した。第4病日にポリープによる直腸脱で再来院した。症例1の経験から、治療はオゾン療法と整腸剤のみとした。オゾン注腸法を開始し、7~20  $\mu$ g/mL、27mL と増量した。同時に、オゾン化オリーブ油 2.5g をポリープに塗布すると、ポリープは脱落し、減量され、直腸脱も整復できた。ポリープの病理検査により、ICRP と診断した。通院治療とし、オゾン注腸法後、オゾン化オリーブ油 2.5g を指で直腸内に注入して、ポリープに塗布し、ポリープを潰すように搔き出した。第60病日 (オゾン療法 20回目) には、直腸内ポリープは触知されなくなり、第124病日 (オゾン療法 24回目) で治療を終了した。

【考察】今回、M・ダックスフンドの ICRP の2症例を免疫抑制剤や外科的治療を実施せず、オゾン療法を用いて完治させた。症例2はプレドニゾロンも使用せず、オゾン注腸法とオゾン化オリーブ油塗布のみで完治した。演者は、ICRP に対し、高額なオゾン発生器がない病院でも、オゾン化オリーブ油塗布のみでも有効な治療が可能と感じている。